

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174300507		
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社		
事業所名	グループホームやまぶき		
所在地	埼玉県本庄市朝日町1-14-3		
自己評価作成日	平成27年1月23日	評価結果市町村受理日	平成27年 4月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JivgoVoCd=1174300507-00&PrefCd=11&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2F
訪問調査日	平成27年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域との「つながり」を重視し、運営推進会議の内容を充実させ、自治会の祭りの参加やボランティアの受け入れを積極的に行っている。そのため入居者様に置かれましては恒例行事などを心待ちにして、季節感やメリハリのある生活が持てるようになっている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は「介護で悲しむ人々がいないように」を企業理念に掲げており、これを基にこれまで培ってきた知識・介護技術をサービスに反映させ、日々ケアの向上に取り組んでいる。職員の利用者に向ける笑顔や穏やかな声掛けから、個々の人格の尊重と誇りへの配慮が伺え、利用者はのんびりと笑顔の多い日々を過ごしている。事業所内は、天井が高く明るく、窓はペアガラスを取り入れ断熱効果が高い。居室の入り口の飾り棚には利用者個々の趣味を活かした作品が飾られている。各所に緑や調度品が設置され、暮らしやすい環境が整えられている。法人主催で全事業所の利用者・家族参加の日帰りバス旅行も行い交流を図っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根づいたサービスを心がけ、事業所理念に基づき実践するよう努めている。	法人の基本理念・基本方針を基に、職員全員で考えたグループホーム独自の理念を掲げ、事業所内に掲示している。会議で共通確認すると共に、理念を実践につなげる具体的な行動の取り組みを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員、自治会長さんとの地域のつながりを大切に推進会議の場を設けて交流を図っている。	近隣を散歩する時には意識的に声掛けし、地域住民との交流を心掛けている。自治会に加入し夏祭りの際には、町内の子供御輿の休憩所として立ち寄りがあり、利用者との交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方々に来訪して頂き、特に大正琴の慰問の方々やキリスト教の慰問の皆様とは、利用者様と一緒にお茶を召し上がって頂き会話をして頂く等の支援をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開き、ご家族・民生委員・市役所の職員との話し合いをし意見交換などでサービスの向上に努めている。	年6回、市の職員や地域包括・家族・成年後見人・民生委員・利用者が参加している。事業所の現状や取り組み等を伝え、参加者より意見や助言等を頂きサービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の行事などの参加を通して交流を図る中で、協力関係を築くよう努めている。	市の担当者とは、介護認定更新手続きなど直接また電話で相談や報告をしている。地域密着型連絡協議会に加入し、意見交換をしたり、事業所の実情やサービスの向上について伝える等、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りや声掛けを強化し利用者様の訴えや話を聞くよう取り組んでいる。	法人本部にて委員会が組織され研修会を開催している。認知症の理解を得ると共に、身体拘束の弊害についても理解を深めている。言葉や態度についても抑制をしないケアに取り組み、職員間で意識の共有を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で常に話題に取り上げ、考えや情報を共有して防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議の中で学習し、理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人やご家族の希望を十分理解した上で、説明して納得を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時あるいは利用料金支払い時など来訪された際、お話を聞き意見交換している。	家族会の開催・電話連絡・面会時には管理者・職員が寄り添い、利用者の状況を伝えると共に、意見や要望を聞き取り、運営に反映させている。法人本部で家族アンケートを実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度の職員会議で意見や提案を聞く機会を設けている。	年2回、面談を実施すると共に、会議の際に職員の意見や要望を聞き入れている。管理者は日常の支援時にも気軽に職員に声掛けし、積極的に意見や提案を出す事ができる場を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表を取り入れ、代表者は管理者と話し合い職員の向上心を活かせるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の法人研修を行い、職員カンファレンスでは様々な話題をあげ勉強を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	埼玉県福祉協議会に加入しており、交流の場に参加し相互の関わりを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話や普段の様子を伺い、ご本人から要望や困ったことなどに耳を傾け、職員やケアマネージャーから伺うこともあり、少しでも不安が無いように過ごして頂けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の希望・要望を伺うと同時に不安なことには、少しでも取り除けることが出来るよう、関係づくりや接遇により、安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様子観察と記録によりケアマネージャー職員との相談・連携によりどんな支援が必要となるか、見極め・観察し努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人お一人、体調の管理を支援し、安全で気持ちよく生活して頂けるよう職員からの一方的な強制などは行わず意向を伺い、笑顔の引き出せる支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	環境・体調の変化など、職員で判断せずご家族様にまず連絡をしご意見をお聞きし、対応させて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に代わって職員が馴染の場所や、人との継続の支援に努めている。	今までの暮らしに近い生活が出来る様に、利用者に合わせ、買い物・外食・外泊や定期的にカラオケに行く利用者の外出支援をしている。友人・知人の面会時には、ゆったりと過ごしていただけるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の個性を尊重し活かせるよう、レクの時間などで協力しあい、関わり、一体感を保てる時間をつくる支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為の退所等の場合は、お見舞いに行ったり年賀状を出す等のお付き合いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人個人の思いや暮らしに対する希望を大切に、対応していく様努めている。	一人ひとりに寄り添いながら、傾聴の姿勢で対応している。また、言葉だけではなく表情や行動のサインも察知し、思いを把握出来るよう利用者本位に検討している。	利用者一人ひとりの思いや意向を把握する方法を検討し、職員側の思い込みにならない専門職として、更にレベルアップすることを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様よりご利用者の生活歴や、他のサービスについても伺い、理解を深めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員がご利用者様一人一人の様子を注意して観察し、カンファ・申し送り等で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスや運営推進会議で職員間、又ご家族等と話し合いご利用者様の状態に合わせた介護計画を作成している。	基本的には3ヶ月毎に見直している。利用者・家族の思いや意向を取り入れ、職員間の情報を共有し、モニタリング・アセスメントを活用して現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護実施記録やケア記録、申し送り帳で情報を共有し、ケアマネに報告している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族からの要望を広く伺い対応していく事を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の尊厳を守り、季節を通し、安全で健康で豊かな暮らしを楽しまれるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の考えを尊重し、かかりつけ医で医療を受けられるようにしている。近隣医療機関の往診を行っており、定期的な血液検査も行っている。	利用者や家族の希望を大切に受診支援をしている。希望する主治医の毎週の往診や、専門医の往診等、積極的に適切な医療が受けられる様に支援している。歯科医への受診は、必要時に家族対応にてお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、看護師による健康管理を実施。その都度体調に合わせて、助言・指示・処置など得られる。24時間の連絡体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご家族・医療機関との情報交換を密に取れるよう心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期においては、事業所が出来ることをご家族に伝え、ご家族のご要望を伺い、医療連携との流れ等の連携により、その都度ご家族様と話し合いを行って、納得のいかれる方向で支援していく。	重度化の方針と緊急時の対応について、事業所が対応しうる支援方法を説明している。状態や事業所の体制を考慮し、医師・家族・事業所で話し合い、可能な限り対応することを職員は共有している。看取りの実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し、且つ使用方法について訓練を実施して、万が一の急変に備えている。また緊急連絡網を整備して、急変時に対応できる体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の他、月1回の自主訓練を実施。飲料水の保管など行っている。	消防署立ち会いの下で、年2回夜間想定を含め、避難訓練を実施している。勤務態勢から災害時(水害・雷・地震)の訓練を行っていない職員がいないように、毎月定期的に自主訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者同士のトラブルを避け、一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシー、個性を尊重し生活して頂き支援している。	排泄時・入浴時・更衣時等の介助が必要な時も、職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、動きや表情を観察しながら、さりげなく声かけする等、プライバシーを損ねない態度で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	望まれること出来る事など、できる限りご希望に添えるよう支援している。意見などもお伺いする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人、ご家族から、担当のケアマネージャーからお伺いし安全で楽しく過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を保つ。頭髪、爪切りなど、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの食べ物や、食べたい物をお聞きし片寄りのないようバランスを考慮し、食べ易いように工夫したりしている。	3食共に、対面式キッチンにて職員が交替で作り提供している。利用者は、洗い物や食器拭き等出来る事を手伝って頂いている。行事を考慮し、ピザやハンバーガーを提供したり、焼きそばやチャンポン麺は好評だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合った量、献立がかたよらないようにし、水分はいろいろな工夫をしながら摂取してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人、必要性に応じたケア、入れ歯の管理・介助等を行い保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけ、トイレ誘導によりその人に合った排泄のパターンを生かして、自立に向けた支援を行い記録している。	ポータブルトイレを使用する利用者もいるが、トイレでの排泄を基本としている。チェック表や利用者の様子を見て声掛けし、トイレでの排泄支援をしている。夜間も声掛けにより支援している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師に相談の上、一人一人に合った運動やケアができるよう取り組んでいる。飲食物の工夫や温マッサージなど。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人がゆったりとした気持ちで入って頂けるよう、時間にゆとりを持ち好みの温度など、利用者様と職員とがゆとりを持ち、個々にとった支援をしている。	週2～3回は入浴できるよう支援している。「いつでも声を掛けてください」の掲示があり、希望者には対応している。訪問看護師の来所時には、足浴提供し、皮膚観察をして頂いている。季節の柚・菖蒲湯も提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日、その時の状況、体調などにより安心して頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援と症状の変化に伴い、医療連携、職員間の伝達等行い、薬の目的・副作用・用量について理解・支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みの飲み物を職員が把握して提供。レクや作品作りなど提供し、楽しまれ、気分転換の向上を計っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車で買い物に行く、戸外に散歩に行くなど、希望や必要性に応じて安全を考慮し、ご本人の希望を把握し、出掛けられるよう支援している。	近隣には公園があり、利用者の体調やその日の天候を考慮し散歩に出掛けている。家族との墓参りや、車を利用してのショッピングモールでの買い物、フードコートでの飲食、季節のコスモス街道・牡丹園等への花見に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	主にはホームで金銭管理、支払いの代行を行っているが、大きすぎない額(1,000円程度)を自分の財布に入れている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば自由に電話して頂いている。又ハガキの投函等の援助も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適切な照明や冷暖房、カーテンの開け閉めに気を配り、又掲示物で季節を演出する様に心がけている。	事業所内は全て二重ガラスになっており、壁には扇風機が設置され適温に保たれている。窓際の花々や大きな観葉植物の置かれた居間は、快適な空間となっている。利用者は思い思いの場所でのんびりと過ごす事の出来る空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲良しの方と過ごせる様席を工夫し、又自由に一人部屋の居室とホールで過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使っていたタンスやご家族の写真、思い出の品等、ご家族と相談しながら設置して頂いている。	居室の入り口には花の名前が付けられ、飾り棚には利用者個々の装飾品が置かれている。家族の協力を得て、日頃使い慣れた小物や思い出のもの、写真、家具などを持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の残存機能に合わせて助言、介助を行い又、生活用品も使い易い物を選んだり設置している。		